

各領域の戦略

領域	2025年度の目標	2025年度の実績
1. 教育		
① 3つのポリシーとコンピテンシーの実質化	1) 教育WSの開催(1回)と次年度カリキュラムの検討 2) カリキュラム研修WSの実施計画 3) 試験問題作成WSの開催 4) 各種FD(歯科医学教育セミナー、教員オンラインテスト等)の開催 5) リサーチマインド養成のためのカリキュラム推進や卒業論文奨励 6) 教育成果に関する第三者評価の実施 7) 共用試験の適切な実施(教員へのFD、修学指導方針説明会での説明、学内における模擬患者要請、評価者認定講習会の継続的受講)	1) 教育WSの開催(9/24)と次年度カリキュラムの検討 2) カリキュラム研修WSの実施(12/20・21) 3) 試験問題作成WSの開催(8/9、11/8) 4) 各種FD(歯科医学教育セミナー(6回)、教員オンラインテスト(9/26・27・29)の開催 5) リサーチマインド養成のためのカリキュラム推進や卒業論文奨励(9名7編) 6) 教育成果に関する第三者評価の実施((株)ジーシー) 7) 共用試験公的化に向けた各種試験における実施責任者・評価者認定講習会の複数回受講、模擬患者養成にかかる協力体制の構築、課題実施に向けた環境整備
② 入試制度の見直し	1) 入試制度について検討を継続(入試検討委員会の開催)	1) 入試検討委員会による入試制度の検討実施(7/4) 2) 高校への積極的訪問、指定校制度における指定基準の見直し 3) 入試日程の変更
③ 高大接続教育の充実	1) 糸魚川市との包括的連携に関する協議会の開催(2回)	1) 糸魚川市との包括的連携に関する協議会の開催(7/7、8/27) 糸魚川白嶺高校への出前授業実施(1/21) 糸魚川高等学校への出前授業実施(3/13)
④ 国際コミュニケーション力の育成	1) 英語 I、II の実施 2) 各専門教科における英語教育の充実の検討(教育WSによる検討) 3) 海外研修の機会の充実	1) 第1学年次の科目として、英語 I、II の実施、第2学年次の科目として歯科医学英語の実施 2) 各専門教科における英語教育の充実を教育WSにて検討(4~9月) 3) 海外の歯科大学の教員や学生と互いの国の文化や歯科界について理解を深め、広い視野を持った歯科医師を養成することを目的としたElectiveStudy・海外研修を実施(3月)
⑤ 歯科界のリーダーとなるためのキャリアパスの構築	1) 卒業生アンケートの実施 2) キャリア支援教育の充実(3年生に対するキャリアセミナー)	1) 卒業生アンケートの実施(9月)、卒業時アンケートの実施(3月) 2) キャリア支援教育の実施(3年生学外セミナー(9/19))
⑥ 大学院教育の高度化と国際化に基づく研究人材育成	1) プレFDセミナーの実施 2) キャリアパスセミナーの実施 3) 日本学術振興会特別研究員に関する大学院セミナーの実施 4) 海外学会発表支援経費による一部旅費の補助 5) 「がんプロフェッショナル養成プラン正規課程3コース」による教育の実施	1) プレFDセミナーの実施 2) 海外学会発表支援経費による一部旅費の補助 3) 「がんプロフェッショナル養成プラン正規課程3コース」による教育の実施
⑦ 学生の生活支援の充実	1) 学年代表意見交換会: 対応の可否について、学生にフィードバックを実施 2) 学内施設の充実化(女子トイレの増設等)	1) 女子学生の増加に伴い、各学年講義室のある新館校舎及びさいかち坂校舎に女子トイレを増設し、学生の教育環境の改善を図った。 2) 学習環境の整備として、照明器具のLED化を進めた。 3) 学術系ネットワークの機器を増設し、教育におけるデジタル環境を整備した。 4) キッチンカーによるランチ提供の導入を決定した。
⑧ 生涯教育	1) 同窓会主催のTDCアカデミア2025への協力 2) 同窓会との共催によるリカレント教育セミナーへの協力	1) 同窓会主催のTDCアカデミア2025を実施 2) 同窓会との共催によるリカレント教育セミナーを実施 教育研究成果を社会に積極的に発信し、社会実装に繋げるとともに、生涯研修を通じた社会貢献を果たすための取り組みを推進した。

各領域の戦略

領域	2025年度の目標	2025年度の実績
2. 研究		
① 口腔科学研究センターを中心とした研究の集約化と研究支援体制の充実	1) 2025年度も引き続きウェルビーイングプロジェクトを推進し、口腔科学研究センターワークショップを開催。さらに、次のプロジェクトの方向性を検討 2) 機器のオペレーターについての体制等の検討	1)-1 2023年度から開始された全学的に推進する東京歯科大学研究プロジェクト(ウェルビーイングプロジェクト)は、2025年度をもって最終年度を迎えた。2025年度は最終年度の計画を推進するとともに、5月に外部評価委員会、1月に自己点検評価委員会を開催し、これまでの実績を評価した。その評価を元に、次期プロジェクト(2026~2028年度)の研究推進・運営体制、研究実施体制を構築した。実施体制は、①チーム研究(4チーム)、②重点的研究(研究展開部門、社会実装部門)、③その他の支援とした。 1)-2 口腔科学研究センターワークショップを開催した。 2) 機器のオペレーターについての体制等を検討し、体制を整えた。
② 研究における学内外の連携体制の強化	1) 口腔科学研究センターの活用や、学外研究施設との共同研究を通じた歯科臨床に還元できる臨床研究、疫学研究および生命科学研究等の支援を実施	1) 口腔科学研究センターを拠点として、全学横断的な研究に取り組み、その成果を産学連携を通じて社会実装へと繋げる活動を推進し、「東京歯科大学口腔科学研究センター研究機器の共同利用に関する協定書」を他大学と締結し、大学間の連携・共同研究を実施した。
③ 研究成果に基づく知財創出と産学官連携推進のための体制構築	1) 引き続き知財創出と産学官連携推進のための体制を構築	1) 企業での経験を有し、基礎研究のシーズを社会実装へ繋げる流れを熟知した客員教授を採用し、支援体制を強化した。 2) 研究成果の社会実装を目指し、口腔科学研究センターを中心とした産学連携体制の充実に図った。
3. 国際化		
① 教員と学生の国際交流の推進	1) 姉妹校、学術協力協定校との連携強化 2) Elective study、海外研修の実施計画(香港大学への学生派遣の実施計画等) 3) 他大学との姉妹校協定または学術協力協定締結へ向けての準備(空軍軍医大学(中国)との協定更新等)	1)スウェーデン、ドイツ、韓国、台湾、香港の5大学(学術交流協定校等)から計13名の学生を受け入れ、国際交流を推進した。空軍軍医大学(中国)主催学生コンペティションへの学生・引率教員派遣した。 2)海外の歯科大学の教員や学生と互いの国の文化や歯科界について理解を深め、広い視野を持った歯科医師を養成することを目的としたElectiveStudy・海外研修を実施(3月) 3)空軍軍医大学口腔医学院(中国)、慶北大学校歯科大学(韓国)との学術協力協定の更新・締結を対面で実施した。

各領域の戦略

領域	2025年度の目標	2025年度の実績
4. 医療		
① 高品質の医療提供	1) 水道橋病院における新医療系システムの活用による、患者サービス、患者管理の徹底 2) 市川総合病院における地域がん診療拠点病院として、医歯薬の連携をより強固なものとし安全・安心ながん診療の実行を継続 3) 市川総合病院におけるロボット支援手術に関して、手術を行う診療科を増やし手術件数の増加 4) 安心・安全な医療を実現するための教職員教育の継続 5) 医療倫理に対する教職員の意識向上の徹底 6) 医療事故防止のため病院間相互チェックを実施 7) 施設の効率的な運営を推進するために、診療科等のセグメント別収支の検証を実施	1) 病院情報システムおよび歯科用電子カルテシステムの更新・運用を通じ、患者情報の適正な管理と診療業務の効率化を推進した。事務プロセスの改善: 事務部門におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進し、患者サービスの向上と窓口業務の円滑化を図った。 2) 口腔がんセンター等と連携し、高度専門職業人の養成や専門的ながん診療の実施に取り組んだ。 3) 高度先進医療の推進: 手術支援ロボット(ダビンチ)等の高度医療機器を効果的に運用し、低侵襲手術の症例数増加と適応診療科の拡大を図った。 4) 全教職員を対象とした「教職員研修会」において、医療安全や感染対策等の知識の涵養を図った。資質向上の推進: 医療の質の保証を目的として、SD(スタッフ・ディベロップメント)活動を通じた職員のスキルアップを継続的に実施した。 5) 倫理研修の開催: 歯科医学教育セミナーや各種研修会を通じ、教職員を対象とした医療倫理研修を継続的に実施した。 意識の醸成: 病院運営における法令遵守および倫理観の徹底を目的として、研修会等での啓発活動を推進した。 6) 医療安全管理体制の強化: 病院間の相互点検や外部評価の視点を取り入れ、医療事故防止のための安全管理体制の検証と改善を行った。 ヒヤリハット等の共有: 医療安全に関する情報の収集・分析を行い、事故防止に向けた再発防止策を組織全体で共有した。 7) 附属病院における診療科別等のセグメント別収支の把握・検証を行い、経営基盤の安定化と効率的な施設運営に努めた。 経営状況の共有: 財務情報の適切な開示と共有を行い、各部門におけるコスト意識の向上と運営の効率化を推進した。
② 附属医療機関を中核とした病病・病診連携体制の強化	1) 水道橋病院における病診・病病連携のさらなる強化(医療連携報告会と意見交換会の対面での開催) 2) 市川総合病院における病診・病病連携をより充実させるためにカンファレンスに加え、歯科医師・医師と直接ディスカッションできる場を設置。意見交換会の実施の継続 3) 市川総合病院における地域医療支援病院として、昨年度は達成できなかった地域の医療機関からの入院要請患者の受け入れ率100%を実践	1) 水道橋病院において、近隣の歯科医院や病院との「病診・病病連携」をさらに強化するため、医療連携報告会や意見交換会を対面形式で開催し、円滑な紹介・逆紹介体制を構築した。 ・地域の医療機関との対面による意見交換を通じ、診療機能の相互理解を深めるとともに、患者サービスの向上に向けた連携活動を継続した。 ・地域医療への貢献: 地域の中核的な歯科医療機関として、近隣の医師会・歯科医師会等とのネットワークを維持・発展させ、質の高い医療提供体制の確保に努めた。
③ 臨床研究の推進	1) 臨床研究の推進をはかるために、講習会を開催し研究のフローを周知	1) 臨床研究の適正な推進: 臨床研究を適正かつ円滑に推進するため、研究者を対象とした講習会を継続的に開催し、倫理審査の申請手順や研究実施のフローについて周知を図った。 ・研究コンプライアンスの徹底: 臨床研究に関する法規制や指針の遵守を目的として、倫理講習会や研究不正防止に関する研修を実施し、研究者の意識向上に努めた。
④ 建学の精神を具現化する歯科界のリーダーとなる医療人材育成	1) 学部学生や新卒のドクターに対して、キャリアパスを示す機会を設定 2) 各学会認定医・専門医・指導医等の資格取得のための支援体制の充実 3) 3施設の特徴を有した臨床研修プログラムおよび医局員研修プログラムの充実 4) 協力型臨床研修施設に対する管理の徹底と質の充実	1) 第3学年生を対象に、9月にキャリアセミナーを実施した。学生課が中心となり、将来を見据えた多様な支援プログラムを明示した。他講座間連携等の研究実施を通じ、若手ドクターの研究活動を推進した。 2) 専門医を積極的に育成・配置した。また、各診療科における専門医の資格取得状況について継続的な確認を行った。 3) 各施設の特徴を活かした教育・研究・医療の発展を図り、プログラム修了生が専門的知識・技能を修得できる体制を整備した。 4) 臨床臨地実習の円滑な実施に向け、実習施設との連携を強化し、実習内容の検証と改善に取り組んだ。

各領域の戦略

領域	2025年度の目標	2025年度の実績
5. 社会貢献		
① 知財創出と産学官連携推進のための体制構築	1) 2025年度も引き続き知財創出と産学官連携推進のための体制を構築(研究③と同じ)	1) 企業での経験を有し、基礎研究のシーズを社会実装へ繋げる流れを熟知した客員教授を採用し、支援体制を強化した。 2) 研究成果の社会実装を目指し、口腔科学研究センターを中心とした産学連携体制の充実を図った。 (研究③と同じ)
② 地域連携	1) 引き続き千代田区との連携の深化を図りつつ、連携協定を締結している他大学との更なる連携も模索 2) 町内会との交流体制を維持・強化	1)千代田区からの依頼により、認知症サポーター大学として「ちよだはあとボックス」に参加・協力し、地域における認知症高齢者への理解促進に努めた。また、学生の千代田区インターシップへの参加や、第4学年において千代田区内の地域包括支援センターでの実習を実施し、事業連携を図った。 2)歯学部診療参加型カリキュラムに参加するボランティア組織(ペイシェントコミュニティ[P-Com])に、町会の協力を得て地域住民から多くの加入をいただき、本学の教育活動の充実へ繋げた。
③ 公的機関の審議会等における発信力の強化	1) 公的機関の審議会等における委員就任のための支援 2) 公的機関の審議会の委員や学会の役員などの就任状況の把握	1) 公的機関の審議会等における委員就任のための支援 2) 公的機関の審議会の委員や学会の役員などの就任状況の把握
6. 教学マネジメントとガバナンス		
① 迅速かつ適切な意思決定の仕組み	1) 法人と大学との連携を強化するための定期的な情報交換の実施	1)各業務執行理事の業務分掌を定め、所掌業務の明確化と意思決定の迅速化、および部署間の連携体制の整備を図った。また、機動的な事務体制の構築とガバナンス強化の観点から、法人事務局に新たに事務局長を置き、法人・大学間の調整機能を強化した。
② 効率的かつ柔軟な人材配置	1) 教員・職員の適正配置 2) 育児・介護等に配慮した仕組の検討	1)教員配置の検証と柔軟な評価: 教育体制を充実させるために教員の配置を恒常的に検証した。また、「教育職員の再任・昇任時における審査及び評価に関する規程」を改正し、個々の事情を考慮した柔軟な評価を行えるよう制度化した。 事務組織の再編と責任の明確化: 事務局長の新設や、広報部・広報室の設置により、機動的な事務体制を構築した。また、各業務執行理事の業務分掌を定め、所掌業務の明確化と意思決定の迅速化を図った。 2)教員の審査・評価規程の改正において、多様な働き方を尊重し、個々の事情(育児・介護等を含む生活環境)を考慮できる柔軟な評価制度を導入した。
③ FDとSDの推進	1) FDの実施 2) SDの実施	1)-①FDの実施: 下記のとおり開催 ・教育WSの開催(9/24)と次年度カリキュラムの検討 ・カリキュラム研修WS(教授准教授WS)の実施(12/20・21) ・試験問題作成WSの開催(8/9、11/8) ・歯科医学教育セミナー(6回)、教員オンラインテスト(9/26・27・29)の開催 ・共用試験公的化に向けた各種試験における実施責任者・評価者認定講習会の複数回受講、模擬患者養成にかかる協力体制の構築、課題実施に向けた環境整備各種WSの実施 2)事務職員を対象として、DX推進やハラスメント防止対策に関するSDセミナーを開催した。
④ 教職員の評価	1) 教育職員活動目標及び評価の見直し 2) 事務職員「目標管理・自己点検評価」の継続実施	1)「教育職員の再任・昇任時における審査及び評価に関する規程」を改正した。これにより、個々の教員が置かれた生活環境(育児・介護等)を考慮した柔軟な評価を行える体制を整えた。 2)事務部全体において「目標管理・自己点検評価システム」を継続的に運用した。
⑤ 教育研究環境の整備	1) デジタルデンティストリーを見据えた臨床基礎実習室整備計画の実施 2) スキルスラボに必要なシミュレータ等の新規導入の検討	1) デジタルデンティストリーを見据えた臨床基礎実習室整備計画の検討開始 2) スキルスラボに必要なシミュレータ等の新規導入の検討開始
⑥ ICTの強化と情報security	1) 情報セキュリティインシデント対応を行う組織(CSIRT(Computer Security Incident Response Team))の設置を見据え、各拠点における連携窓口部門の設置を検討 2) 事務部門の基幹業務DX化の推進 3) 本館における学術無線ネットワーク機器のリプレイス 4) 市川総合病院・千葉歯科医療センターにおける学術専用線(SINET)の新設およびSINETを利用した拠点間通信(仮想大学LAN)の構築	1) 本学における、一層の管理統制と強固な情報セキュリティ体制を構築するための見直し(継続中) 2) 勤怠システムを中心とした基幹業務DX化の推進(継続中) 3) 本館における学術無線ネットワーク機器のリプレイスを実施 4) 千葉歯科医療センターにおける学術専用線(SINET)の新設およびSINETを利用した拠点間通信(仮想大学LAN)の構築を実施(2026年3月完了予定)
⑦ 将来計画	1) 法人による中期計画の進捗状況評価	1) 法人による中期計画の進捗状況の確認、評価を行った